

令和元年8月5日

加西市議会議員 土本 昌幸 様

21 政会・加西ともに育つ会
代表 森元 清蔵



調査研究報告書

下記のとおり行政視察研修を行いましたので、報告いたします。

記

1. 調査年月日 令和元年7月8日（月）～9日（火）
2. 視 察 先 島根県江津市・邑南町
3. 出 席 者 衣笠利則・佐伯欣子・原田久夫・深田照明・森田博美・森元清蔵
下江一将
4. 研修内容（詳細は別紙）

江津市

7月8日（月）13:30～15:00 庁舎にて

●まちの活性化について

（視察対応者）

市議会議員 森脇悦朗

地域振興課 植田係長

議会事務局 大屋局長

高木係長

7月8日（月）15:15～17:00 NPO 事務所にて

●NPO 法人 てごねっと石見 の取り組みについて

（視察対応者）藤田孝子理事長

邑南町

7月9日（火）10:30～12:00

●A級グルメ構想について

（視察対応者）

市議会副議長 中村昌史

農林振興課 大賀課長

藤井主任

議会事務局 柳川局長

5. 添付資料

- ① 視察行程表
- ② 研修資料
- ③ 写真

【視察項目】 ・まちの活性化・NPO法人てごねっと石見 の取り組みについて

【 目的 】 まちの活性化に向けての官民産の連携の取り組みを学ぶ

1. 官民産の連携に向けての取り組み

(1) 守りの定住対策

空き家バンク

- ・登録申込み→ 市が現地調査→ 空き家バンク登録（破損が著しい物件はお断り）
- ・市が物件紹介・案内→ 宅建業者が仲介→所有者と契約→入居

対象者はU・Iターン者に限る

空き家活用移住者の実績

年度（平成）	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	合計
登録物件	20	24	24	33	29	38	42	39	30	25	24	18	346
入居数	10	9	13	18	13	20	16	8	7	8	12	15	149
利用移住者	12	19	34	45	45	46	34	19	20	18	26	25	343
賃貸	10	15	23	29	36	27	14	13	13	3	8	3	194
売却	2	4	4	6	0	19	17	4	7	13	18	22	116

(2) 攻めの定住対策

どんな人がU・Iターンするかが大切→起業する人を誘致する方向へ

2010 年度（平成 22 年）～過疎地域の課題解決型ソーシャルビジネス等創業支援事業

都市部

ソーシャルビジネス

ビジネスコンテスト

社会企業家

コミュニティービジネス

← GO-CON

企業志向

地方志向

(3) 定住対策としての人材確保 GO-CON（ビジネスプランコンテスト）

【事業の主旨】…過疎・高齢化地域に発生する課題に対応するビジネスや、地域固有の資源を活かしたビジネスの創業を支援することで、地域に根づく小さな産業や雇用を多数創出していく仕組みづくりに取り組み、安心な生活・経済・人口の維持に努める。

【事業の概要】公の手が届かない分野において効果的に地域課題を解決することを目指すビジネス（ソーシャル・ビジネス）や地域資源を活用したビジネス（コミュニティー・ビジネス）の創業を志す人材や企業を誘致し、その創業を支援する仕組みづくりに取り組む。

【事業導入の背景】

1. 誘致工場の撤退、土木建築業等の廃業・閉鎖により、雇用の場が急激に減少しており、人口の流出や減少に歯止めがかからない状況がある。
2. 行政サービスが縮小傾向にあり、新たな公共の担い手が必要になっている。
3. 若者世代のU・Iターン者の受け入れをしたくても、働き場がない。

【コンテストの流れ】

募集開始	→	応募期間	→	一次審査	→	フラッシュアップ	→	最終審査	→	大賞決定
5月下旬		8月初旬まで		8月末		最終審査まで		12月中旬		12月中旬
支援体制の 確認		プロモーション活動 つながりづくり				プランの確立 つながりづくり				1名100万円 市内への宣伝

【フラッシュアップ】関係機関が関わる（既に起業している人も）

商工会議所・商工会……起業・経営支援・専門家派遣

信用金庫……融資・資金・事業計画指導

江津市……支援制度・規制等のチェック・移住支援

てごねっと石見……相談窓口・ネットワーク・トータルコーディネート

（内容）

- ・事業の支援や共同事業につながる
- ・それぞれが支援を分担、そして継続的な支援
- ・次回のビジコン申込者を連れてくる

ビジネスプランコンテスト

年度	22	23	24	25	26	27	28	29	30	合計
応募件数	25	23	13	11	13	9	5	7	6	112
男・女	18・7	16・7	12・1	7・4	6・7	6・3	3・2	4・3	4・2	76・36
市内	6	12	4	3	4	5	4	1	4	43
市外	19	11	9	8	9	4	1	6	2	69
審査会進出者	6	7	6	6	6	6	3	6	5	51
大賞	4	2	1	1	1	1	1	1	1	13
創業件数	1	2	1	1	3	4	2	4	2	22

【成果】

①若者の創業や、地域活性化活動を支援する組織が生まれた

NPO法人てごねっと石見

②起業家支援コンソーシアムの結成

市、てごねっと石見、商工会議所、商工会、金融機関

③新しいビジネスの創造

デザインオフィス、プロデューサー、ウェブデザイナーなど

④コトを起こした人のネットワーク

2. 地域コミュニティー活動

平成28年度に、市内20地区すべてにコミュニティー交流センターを拠点に地域コミュニティー組織が発足。平成31年3月に地域コミュニティーのあり方方針を決定。

（活用の必要性）

- ・地域活動の維持のため
- ・地域課題の解決のため
- ・地域社会での自己実現のため

（組織のあり方）

- ・合意形成を進める場として
- ・活動を調節する場として
- ・だれもが参加できる場として

（活動のあり方）

- 3つの方向性
- ・安心して住める地域
 - ・持続可能な地域
 - ・魅力的な地域

3. 「NPO 法人 てごねっと石見」 の取り組み

NPO 法人 てごねっと石見

2010 年江津市ビジネスプランコンテスト（GO-CON）始まる。

プラン実現へ向け、伴奏できる組織を作りたい（行政）

石見地域の若者が生き生きと暮らせるような土壌を作りたい（民間）

設立	2011 年 4 月 1 日
活動理念	人口流出、雇用の場喪失の問題が顕著な石見地域において、地域おこしに燃える人が行政区域、地域の垣根を越えて連携し、地域イノベーションを起こす。 若者が返って来られる地域をつくる為、地域と若者の成長を目指す。
役員	会社経営者、商店会会長、元学校校長、高校魅力化コーディネーターなど 10 人
実務スタッフ	14 人（パート、アルバイト含む）

創業支援や人材育成を通じて、地域が元気になる“てご（お手伝い）”する団体。
地域の担い手を育成し・支援する団体

(1) GO-CON の運営

プランの相談窓口、情報発信の支援、チャレンジショップの運営

(2) 中心市街地の活性化と市民活動の促進

- ・江津駅前商店街の仲間づくり（商店会の事務局機能を担う）
- ・「駅前がにぎやかになると江津の元気を思い出す」
- ・空き店舗調査
- ・52BAR（金・土 18：00～21：00 のみ開店）
- ・5 歳下の年齢層を巻き込む 学生う・まいんど
- ・手つなぎ市（空き店舗を活用、大家さんとのコミュニケーション）
- ・小学・中学・大学生とのコラボ（職業体験等を学校に呼びかける）
- ・手つなぎ土曜夜市
- ・うわさプロジェクト（〇〇は〇〇らしい）
- ・パレットごうつ開館（指定管理団体になる）H26
部屋の貸出、イベント等の企画
地域の若者との接点を作る

(3) GO▶つくる大学 誰もが関わることの出来る自由な学びの場づくり

自分たちが暮らすまちで、もっとおもしろく生きてくために生まれた学校。
一人が「知る」より複数で「学ぶ」、複数で「学ぶ」よりお互いに「学び合う」。
ここにしかないものは絶好の学びのタネ。そのタネはこのまちに暮らす人たち、ひとりひとりが持っている知識や経験そのもの。それらを互いに交換すること、そして学んだことを実践してみ
るという繰り返しが、昨日より今日をきっと楽しくすることにつながる。
まちをもっと使いこなそう。みなさんの暮らしを豊かにする装置として、「GO▶つくる大学」
は、未知との遭遇を創り出していきます。

島根県おうなん邑南町

【視察項目】 A級グルメ構想について

【 目的 】 A級グルメの取組みによるまちの活性化に学ぶ

A級とは高級ということではなく、ここでしか味わえない食や体験
生産者が一生懸命作った産物はA級品である。自信と誇りにつながる。
商品の評価は高いが、生産量が少ないため都会で扱ってくれないので、来てもらう。

●A級グルメ構想（平成23～27年度）

地域の誇りを育む（ビレッジプライド）

美味しい物は地方にあって、美味しいものを知っているのは地方の人間である。

●成果 ①定住者の確保 240人 ②観光入込客数 92万人 ③起業家数 43人

④3年連続人口社会増

⑤知名度アップ 過疎地域自立活性化優良事例表彰、ふるさとづくり大賞（総務大臣賞）
メディアで紹介

●取組み

①地産地消のレストラン（a j i k u r a）の立ち上げ H23

- ・耕すシェフの研修施設
- ・一流シェフの指導
- ・レストランレシピのオープン化
- ・食の研究所と連携
- ・生産者との交流

②食の学校の立ち上げ H26

- ・100年先の未来の子供たちへ継承する食文化
- ・町民向けの料理教室の開催
- ・小中高への食育（スイーツ甲子園）

③農の学校 H27

- ・ふれあい体験農園を活用した有機農業の普及
- ・研修生の受け入れと新規就農者の育成
- ・有機野菜のブランド化

④地域おこし協力隊の導入 H23

通常は地域の課題解決という目的が多いが、邑南町ではシェフと農業の研修制度として活用

- ・研修費がかからずプロから料理と農業が学べる
- ・研修場所が現場
- ・起業をバックアップ
- ・自分ゴトが地域のためになる事も

耕すシェフ H23

- ・食材づくりを学びながら料理を学ぶ制度（有名シェフから指導を受ける）
- ・華調理専門学校（東京）、広島酔心調理製菓専門学校との連携による人材確保

アグリ男子・女子 H26

- ・有機栽培（BLOF理論）を学び機能性野菜のブランド化を図る人材育成

地域おこし協力隊の実績

総受入数 71名、研修修了者 53名、現在研修中 18名

転出者 26名、定住者 22名（内 12名起業）、定住率 42%

●以後の展開 起業・創業支援ビジョン（H28年～令和2年）

地域型循環経済の確立

- ・町内での金銭の循環と町外からの金銭の流入…リーズナブルなレストランの立ち上げ（H30）
- ・地域の人間が地元商品を愛し、地元商品を購入する
- ・商品の魅力を域外に向けてPR…につぼんA級グルメのまち連合結成（東京に事務所）

【島根県江津市】 まちの活性化・NPO法人てごねっと石見 の取り組み

・攻めの定住対策として、起業する人を誘致する取組が素晴らしい。ビジネスコンテストを行い、申し込んでから最終審査の間に、市、商工会議所等、NPOが関わってつながりを作り、後々の起業支援を行っている。なかでも、NPO法人てごねっと石見の存在が大きい。今では、起業支援だけでなく、施設の指定管理をして地域住民の成長にも努力されている。加西市でも、こうした中間組織としての人材育成・起業支援をする団体を育てていく必要がある。今後コミュニティービジネスやソーシャルビジネスが生まれてくるためにも是非必要である。

・ここでは、地域コミュニティー組織が、交流センター施設とセットで組織されている。市の今後の方針を市民との話し合いの中から決めていっている。加西市においても、市としてふるさと創造会議の基本的な目指す方針を決めて、その方向に向けて取り組んでいく必要があると思う。

【島根県邑南町】 A級グルメ構想について

生産者が一生懸命作った産物はA級品である。地方にこそおいしいものがある。この発想が自信と誇りにつながっている。一流シェフを招いてレストランを立ち上げ、若いシェフを育て、5年間で43人が起業し、11,000人の町に92万人の観光客を受け入れ、240人が定住している。地域おこし協力隊とこのグルメ構想を結び付けてシェフや農業の担い手を育て、53名中22名が定住している。加西市にもA級の農産物があるので、食と農を結び付けた取り組みを考えていきたい。

島根県江津市【まちの活性化について】

1 まちづくりの取組みについて

江津市の人口動態は、平成26年度の工業団地開発に伴い一時的に社会増になるも社会減・自然減により10年間で3,000人余りの人口減少に苦慮している。

総合戦略として「しごと」と「ひと」の好循環づくりと人口減少対策で【守りの定住対策】として空き家バンク制度を確立している。

行政が空き家バンク登録窓口となり行政により希望者の現地調査を実施し、紹介から現地案内まで職員が行っており契約については、宅建業者を紹介している。

対象者は、原則としてUIターン者で近隣市町村は対象外としているが、これまで

12年間で移住者が343人であった。

この取り組み内容について参考にするべき点が多くあると思った。

次に【攻めの定住対策】として起業する人の誘致対策として「CO・CON」ビジネスランコンテストを市内外から募集し9年間で112件の応募があり13名を表彰し、企業誘致件数が22件と実績を上げている。この取り組みについては、江津市中心市街地活性化基本計画により行政、駅前商店街、NPO法人「てごねっと石見」との連携による協力体制が出来ている。加西市との地形、環境の違いがあるも官・民・産の連携について参考すべき内容が多くあった。

2 地域コミュニティについて

加西市のふるさと創造会議「まちづくり協議会」と同様の組織で地域の課題解決を目的とした組織づくりであった。

江津市の地域コミュニティは、平成28年度に市内20地域が発足していたが、地域により方針、活動内容及び当初の目的も親睦行事から課題解決事業への指針から異なってきたので、地域コミュニティ見直しが必要となり平成30年度中に市民参画によるワークショップを5回開催、行政担当者による検討委員会を6回開催し、必要性、組織のあり方、活動のあり方、行政による活動支援を見直し提案している。

加西市も、ふるさとを思うみんなが集う共同の地域づくりについて見直しの時期が来ていると感じた。

3 NPO法人「てごねっと石見」の活動について

若者が帰ってこられる地域づくりを理念に設立。現在では、江津市、商工会議所、信用金庫の協力により起業の支援体制を確立し、起業プランの窓口・情報発信の支援・チャレンジショップの運営を行い、また中心市街地の活性化に取り組み、市の駅前再開発に合わせ空き店舗への出店の促進に努め6年間で35店舗がオープンしているなど若者への支援体制が充実している。

パレットごうつ(公民館)の指定管理者となり、地域の課題でもある若者とのネットワークづくりから誰もが関わることの出来る自由な学びの場として「GO つくる大学」開校し地域の活性化への取り組みの姿勢について参考になった。

島根県邑南町【A級グルメ構想について】

A級グルメとは、高級食材ではなく邑南町で取れた食材で作るグルメであり、ここでしか味わえない食と体験で、生産者が作った作物をA級品として位置づけ生産量が少ないため地元へ来てもらおうという若手職員の発想でスタートしている。

邑南町農林商工等連携ビジョン「A級グルメ」をH23年からの5ヶ年計画で実施し、定住者と観光入込客数共に目標数をH27年度に達成し、起業家数も目標5人に対して43人と大きく達成した。H28年から起業・創業支援ビジョンへ移行している。

特に平成23年に地産地消レストラン素材香房 *ajikura* を立上げ平成26年に食の学校を立上げシェフの研修制度、レストランレシピのオープン化等特色のある取り組みにより多くのメディアに取り上げられ平成27年度には、(株)ローカルフードラボへ移行し成績をあげている。

邑南町は、農畜産業が盛んで食材が豊かでたくさんの食文化を利用した地域ブランド作りに取り組んでいると共に農業研修生制度を行い地域おこし協力隊「おーなんアグリ隊」育成として3年間の農業研修(一年目栽培研修、二年目農家、農業法人研修、三年目就農準備)を実施し、食と農の取り組みにより平成31年には、定住者22名の内飲食関係8名、新規就農3名が起業している。

これらの取り組みは、行政と地域が一体となっており地域型循環経済の確立であり加西市にも参考にする項目が多くあった。

行政視察の所感

森田 博美

視察先までの移動時間は長かったが、江津市での視察は、行政担当者からの説明に加えて、NPO法人のスタッフからの説明と起業した店舗等の現地案内、さらに夕食会を兼ねた懇親会も実現したために、視察内容の聞き取りは充実。取り組みの苦労や工夫点など詳細に学ぶことができ、参考にできる点が多々あった。

島根県内8市中、人口最少の江津市は、H22年に人口激減期となり県内最悪の7.5%を記録。自分たちの町が消滅するのではないか、その危機感が行政と地域住民を動かしていると感じた。地域と行政が協働してまちづくりを進めている手本、見事な連携を実践されている。人口減少や高齢化により直面する課題を、地域住民で協議し解決策を実践するために『地域コミュニティ』を推進。これまでの公民館を交流センターに切り替えている。組織は、合意形成を進める場、地域の活動を調整する場、誰もが参加できる場とし、地域課題を明確化して3段階で地域づくりの将来像をめざす『あり方指針』にまとめられ、みんなが集う協働の地域コミュニティが実現されつつある。加西のふるさと創造会議の活動にも大いに参考になる。

守りの定住対策として空き家バンク等を展開してこれまで343人が移住。働き場を創り出せる人材、起業する人を誘致する攻めの定住対策も強力果敢に展開。その仕組みをGO-CON事業（ビジネスプランコンテスト）として展開。ソーシャル・ビジネスや、コミュニティ・ビジネスの創業を志す人材や企業を誘致して、その創業を支援するためにそれを開催している。

そのGO-CONを運営しているのが『NPO法人てごねっと石見』（てご=手伝いするネットワーク）。行政との連携も見事と言えるが、このNPOの活動は凄い。GO-CONを含めた移住・定住の取り組み、キャリア教育の取り組み、地元商店街との連携支援の中心市街地活性化事業など、若者と地域の成長を追及し、若者が帰って来れる地域づくりを展開している。固定概念を取っ払い、地元江津市の住民みんなでこれからのまちづくりを描いて新しいものごとを創り出そう、未来は自分たちの創造力で協働して切り開こうと呼びかける『GO>GOTSU!』『山陰の創造力特区』へ、には引かれるものがある。

島根県中央部の山間にある自然豊かな邑南町では、おいしいものは地方にあり、本当の美味しさを知るのは地方の人間であるとする地域の誇りを育む『ビレッジプライド』を定着させるために、あえて生産者が一生懸命に作った産物をA級品であると認定、邑南町で生産される農林産物を素材とする『ここでしか味わえない食や体験=A級グルメ』としている。

最高の食材を最高の状態で仕入れてつくるイタリア料理は有名で、生産農家や地元の誇りであり、食による地域活性化に貢献している。豊かな食文化を100年先に繋げるために食農教育をはじめ町の魅力創造をめざした『食の学校』も好評とのこと。

『おーなんアグサポ隊』として、地域おこし協力隊を多人数募集、これまで71名を受け入れて、その内22名が定住して12名が起業している。専用研修農場があり、基礎や技術を学ぶだけでなく、まちや人に触れる研修の3年間になるよう工夫されている。

また、H28年度から5年計画で、町外へ支出されるお金を極力抑制して、地元で循環するお金を殖やす『地域型循環経済』の確立を目指している。住民による地元産品の購入、域外への販売、起業者の呼び込みと雇用の創出など積極的な取り組みは参考になる。

7月8日（月）

江津市のまちづくりとコミュニティについて、

最初に江津市のまちづくりでは、大手企業の倒産、企業の市外への進出等が重なり大きく人口の減少になり定住対策に取り組んだ。その様な状況の中で、住宅問題では加西市と同じようなサポート事業を展開されU・Iターンの受け入れ、空き家バンク制度もあり、若い人の事業・企業起こしに積極的な取り組みをされており、その中でもビジネスプランコンテストを行い創業支援に自立活性化推進交付金の補助がされ、「GO-CON」が開かれている。組織には市・商工会・銀行・（NPO法人）てごねっと石見が参画し10年間で22の店舗の創業があり、若い人が地域の魅力を追求し若者が帰って来る町にしている。

地域コミュニティでは、加西市のふるさと創造会議と同じ様なもので、比較的小人数のコミュニティの開催でワークショップでのスタイルが紹介され、持続可能な魅力ある地域づくりに取り組まれていた。

NPO法人「てごねっと石見」の活動について、考え方等の説明をもらった。駅前商店街がシャッター商店街になり、市のまちづくりに積極的に取り組み、若い人の創意と工夫により活性化を取り戻す仕組み作りを実際の店舗で見学をさせて頂いた。イベントでは集客が出来るが普段の日での経営までは少し課題が残るのではないかと思います。やはり人口的な問題が先に大切な課題かと思いました。加西市に於いては、現状の人の動きから見て北条の商店街の活性化に大変有効的な手段かと思いました。

7月9日（火）

邑南町のA級グルメ構想について

地元で生産された農林産物を素材としてここでしか味わえない食や体験をする事でB級グルメとは異なっていた。一流のシェフによるこだわりの料理とか、パンであり、色々なこだわりにより地域の活性化を図ろうとされている。

目的として食から職を生み出すバイオニアづくり、食の産業の担い手づくり、食による観光誘客の推進と三つの目標を掲げられており食へのこだわりが感じられた。地域の活性化の手段でありそれに関連し食文化の大切さを住民が感じておられる様に思えた。加西市に於いても、食の文化を大切にして地場産業とし農産物の推進に努めたい。

総合的に江津市・邑南町共に人口の減少、産業の衰退等の問題点を解決の手段としての取り組みであり、早速の効果は期待できないかも知れないが、話題性、若い人への創意工夫は感じられた。

《視察所感》

深田 照明

●江津市 ・江津市のまちづくり ・GO-CON コンテスト

人口減少が続いていた江津市は、平成 19 年の石州瓦倒産、その後の企業撤退など雇用の場も減少し、より厳しい状況になった。そこで、単に空き家を紹介するだけの守りの定住対策である空き家バンク紹介制度だけでは無く、平成 22 年に攻めの対策である「GO-CON ビジネスプランコンテスト」開催を全国発信し、応募者の江津市を愛し、ここで起業する熱い思いを確認し、起業を市がバックアップする施策を続け、平成 30 年までに全国からの応募者 112 名の中から 22 名がパン屋、バー、建築、ビールやパクチャー作りなどの起業家として移住し、商店街の活性化も図られ人口減少が少し改善された。

加西市は守りの空き家紹介事業が主体であり、まだまだ起業して移住したいという方の掘り起こしやニーズを十分把握できていないので、この GO-CON プラン活用は有効であると考えます。

●江津市 ・てごねっと石見の取り組み

江津市や石見地方に若者が帰って来られる地域をつくる為、てご(手伝い)をする NPO 法人てごねっと石見が 2011 年に商店会会員など地域おこしに燃える人々により結成された。当時の江津駅前商店街は 30 店舗以上が空き家で閑散としていたが、てごねっと石見が窓口となり、江津市、商工会議所、信金などが支援して、飲食店、おしゃれなバー、パン屋など 35 店が現在までに出店し、商店街に活気が戻ってきている。そして集客の取り組みで地元の中学生から大学生にも夏祭り、お化け屋敷、ハロウィンなどの企画に積極的に参加してもらい、将来の活動の担い手を育成するプログラムもしっかりとされている。

加西市でも旧北条商店街の活性化などを図られているが、今、頑張っている方々の思いを次世代に引き継いでいく体制の確立が重要であり、決して、町の活性化が義務では無く、地元を愛する気持ちで楽しく行動したいという思いの醸成が継続と活性化の鍵であると思います。

●邑南町 ・A 級グルメ構想

A 級グルメとは高級料理という意味ではなく、邑南町で大切に育てた牛や野菜などを使って、ここでしか味わえない料理を食べてもらうことで、生産者のあつい思いをシェフが具現しているとの説明は加西市でも十分、取り組める内容と思いました。平成 23 年に ajikura という三ツ星レストランを作り、食の学校を年間 60 回以上開催し、小学生から高齢者まで町の食材の素晴らしさを広め、また食に関する仕事に従事したい地域おこし協力隊を支援して、12 名が起業、22 名が定住され、定住者獲得策として食などある分野に特化した考え方も有用と考えます。

〔所感〕

佐伯 欣子

【江津市】

以前、加西市に「まちづくり」の指導に来ていただいたご縁で、今回は江津市のまちづくりと地域コミュニティの実践力を学ばせていただいた。

現在の人口 24,184 人。市が将来における人口の激減を予測され、危機的状況からの改革は、加西市においても、見習うべきことがたくさんあった視察だったと思う。

結論としては、市と地域とNPOが、目的と課題を共有し、目指すべきものが共通しているということ。これは、口では簡単に言えても実践することは非常にむずかしいことだと感じた。キーワードは、「創造」すること。そのために、活動人口と関係人口を増やしていくことを実行されてきた。活動人口とは、市内で起業する人、主体的に地域活動する人。

関係人口とは、外から関わりを持つ人、市に興味を持つ人。そして、このような人を増やしていくためのしくみ（・興味を持ってもらう。・活動している人とつながる。・できることを見つける。・仲間をつくれる。）を作っていかれた。

いろいろな人の知識、アイデア、集まって生まれる新しい「こと」を具体化する「創造」を現実化されるために、諦めないで継続し続けておられる努力に勝るものはないと感じた。加西市においても、10年後を目指し、まずは1年、そして、3年、5年と積み重ねる努力を惜しんではないし、小さな成果を大きな成果に変えていくために、自分自身のビジョンを大きく描き、実践してまいりたい。

【NPO法人てごネット石見】

NPO法人てごネット石見は、10年前から活動が始まった。

「若者が帰ってこられる」地域をつくるため、2010年から、ビジネスプランコンテストを始められ、コンテストで賞をとられた方、市、地域の皆さん、企業の皆さんがどうやったら、手をつないでいけるかをNPOの方々が考えに考えられ、工夫され、呼び掛けられ、今の活動になっている。

江津駅前開発「パレットごうつ」は、建物だけを建てるただの開発ではなく、地域の若者との接点をつくるという課題を持って、取り組まれたものである。10年の積み重ねは大きいし、気持ちや思いがなければできない。

注目したいのは、初代のNPOの理事長は、現在、管理職についておられるが、市の女性職員の方で、現在の理事長も女性の方である。やはり、細やかなところや根気のいる仕事は、女性の方には適任だと感じた。

お話を聞かせていただくと、目的と課題に向かって、どんどん前進していくと、協力者が現れ、善の循環が起こっている。

突き抜けるところまで続けられるか、加西市の課題である。

【邑南町】

「A級グルメ構想」と聞くと、高級なグルメに取り組んでいるのかとイメージしやすいが、美味しいものは地方にあって、美味しいものを知っているのは地方の人間であるということから、良いものは都会から来てもらうという発想の転換で、実践されている。

はじめは、若手の職員が提案されたことも一歩前に進むきっかけになったと思う。

里山にイタリアンレストランを作るだけなら、どこの市町でも、なんとかできることかもしれないが、何よりも、シェフ（料理人）と農業という異質なものの組み合わせで研修制度をつくれ、人材育成と起業、定住につなげていくことは創意工夫と継続が必要だと思う。

外部からの研修受け入れ人数のうち定住率が、42%というのも、とてもよく理解ができた。現在の展開が、食と農に関する企業家や担い手に加え、「IT」、「デザイン」、「観光」、「教育」、「福祉」、「医療」の6つを重要分野に指定し、取り組みを進めておられるとのことで、近隣市との連携もしっかりされているのは、とても望ましいと感じた。

【島根県江津市】

『まちの活性化について』『NPO 法人てごねっと石見について』

江津市は人口が2004年～2018年にかけて4748人減少しており、高齢化率は37.6%、市全域の空き家率は13.1%（2006-2007年の調査）となっている。

2010年度から過疎地域等自立活性化推進交付金を活用し、定住対策のため担い手の発掘・育成、空き家の活用を目的としたビジネスプランコンテスト“GO-CON”を行い、“本気で起業を考える人”の誘致に取り組んでいる。市役所、商工会議所、金融機関、NPO法人など様々な組織が連携し、応募者をフォローアップする体制があることに感心した。結果は9年間で応募件数は112件、創業件数は22件となっている。

2015年には江津市中心市街地活性化基本計画を策定し、医療・福祉・学校・文化・住宅の分野にも活動の幅が広がっている。“GO▶GOTSU! 山陰の「創造力特区」へ。”をプロモーションのフレーズとして町が面白くなっていることを発信している。

ビジネスコンテストのトータルコーディネーター(中間支援)を担当するNPO 法人てごねっと石見は「若者が帰って来られる地域をつくる」を理念として、キャリア教育や市民大学、複合公共施設の指定管理など多岐にわたり活動している。

加西市においても課題である人口減少、空き家問題について様々な組織が連携できる体制づくりを進めると共に担い手を発掘し、育成する意識を各分野で高める必要があると感じた。また、町の層を厚くするためには企業や住民がより関わりやすい町の柱(テーマ)を提示することが大切だと感じた。

【島根県邑南町】

『A 級グルメ構想について』

邑南町の人口は11,101人(2015年)で面積419.22km²のうち86%が山林である。また、総農家数1,711戸、耕地面積1,930haである。邑南町農林商工等連携ビジョンのコンセプトに「A 級グルメ～ここでしか味わえない食や体験～」を掲げて“生産者が一生懸命作った産物は A 級である”という考えを元に野菜や土地を活用した地産地消レストランの立ち上げ・運営、耕すシェフ・おーなんアグサボ隊（シェフと農業の研修制度）として地域おこし協力隊を受け入れ、起業のバックアップを行っている。

2011年～2015年の5ヶ年計画では目標起業家数を5人に設定していたが結果は43人と大幅に目標を越えている。また、定住者も目標200人に対して240人と目標達成している。地域おこし協力隊は71人受け入れし、22名が定住うち12名が起業している。ここ数年は地元民や地域おこし協力隊以外でも起業する人が増えている。特化された産物がない中で町外から人が呼び込んでいるプロモーション力に感心した。

加西市でも農業の担い手が減り、耕作放棄地が増えている。県立播磨農業高等学校、県立農業大学校、神戸大学食資源教育研究センター、JA 兵庫みらいなどの農業に関わる機関と連携し、農業を活かした活性化を検討していただきたい。

21 政会・加西ともに育つ会
行政視察 行程表

7月8日(月)

07:30 姫路駅北口バス停発(プリンセスバード:鳥取大学前行)

09:37 鳥取駅前バス停着

09:44 鳥取駅発(特急スーパーおき3号)

12:31 江津駅着

◆昼食

13:30~14:30 ◎江津市視察「まちの活性化について」

15:00~17:00 ◎NPO 法人てごねっと石見

「NPO 法人てごねっと石見の取り組みについて」

◆宿泊 [スーパーホテル江津駅前]

7月9日(火)

08:33 江津駅発(JR 山陰線)

09:04 浜田駅着

09:20 浜田駅前バス停(高速バス:いさりび号)

10:01 瑞穂インターバス停着

【ジャンボタクシーで移動】

10:30~12:00 ◎邑南町視察「A級グルメ構想について」

【ジャンボタクシーで移動】

◆昼食

【ジャンボタクシーで移動】

13:36 瑞穂インターバス停発(高速バス:いさりび号)

15:20 広島駅新幹線口バス停着

16:06 広島駅発(のぞみ136号)

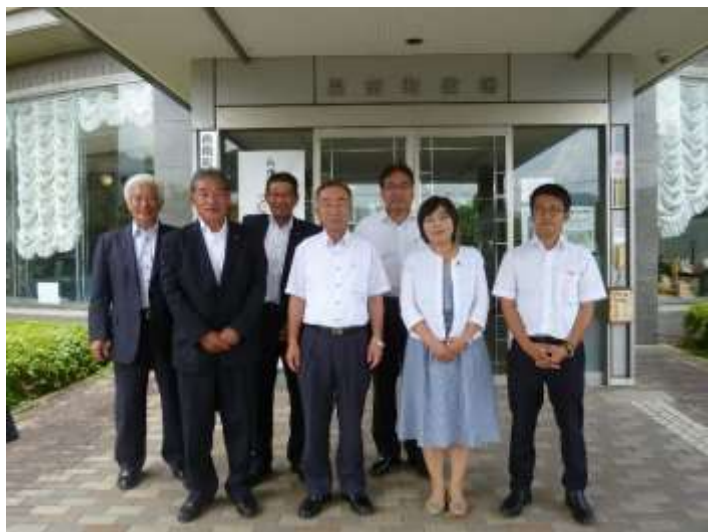
17:02 姫路駅着



島根県江津市



NPO 法人 てごねっと石見 事務所にて



島根県邑南町